

Azure App Service における UiPath Orchestrator イベントログ出力

リビジョン履歴

Date	Version	Author	Description
Oct 12 th 2020	1.0	Hideaki.F	First version
31 st Aug 2023	2.0	Hideaki.F	Added steps to get Identity Server event logs
27 th Oct 2023	2.1	Hideaki.F	Updated for v2023.10

商標について

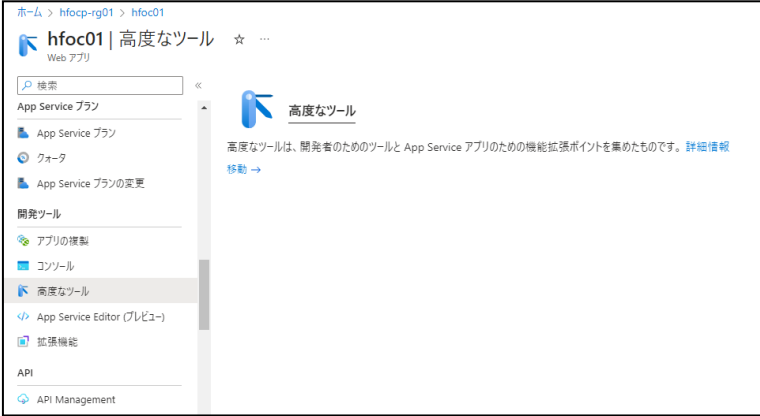
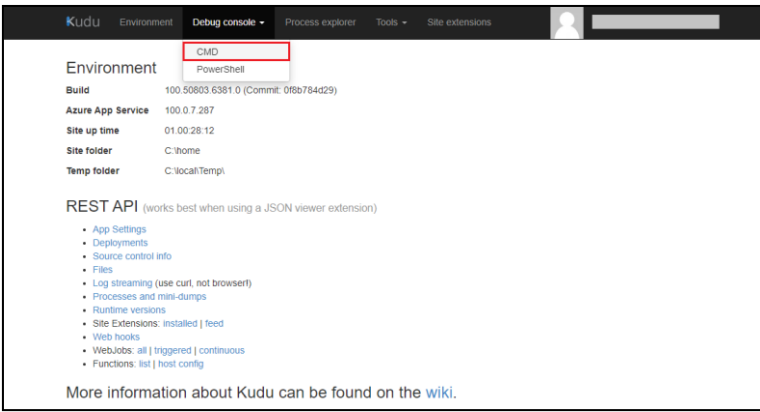
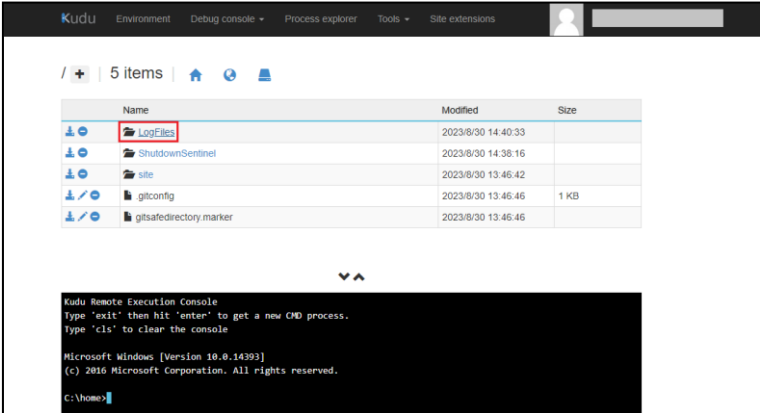
- UiPath のソフトウェア、製品、サービス (これには、UiPath Orchestrator、 UiPath Robot、 UiPath Studio が含まれますが、これらに限りません) はアメリカ合衆国で登録された UiPath Inc.、 および他の国・地域で登録された UiPath の関係会社の商標または登録商標です。 UiPath のロゴは UiPath Inc. が所有するものであり、UiPath の事前の明示的な許可なく、お客様及びその他の方が使用することはできません。
- Microsoft のソフトウェア、製品、サービス (これには、 Microsoft、 Windows、 Windows Server、 SQL Server 及び Active Directory が含まれますが、これらに限りません) は アメリカ合衆国で登録された Microsoft Corporation 及び他の国・地域で登録されたその関係会社の商標または登録商標です。
- Oracle のソフトウェア、製品、サービス (これには、 Java も含まれますがこれに限りません) は アメリカ合衆国で登録された Oracle 及びその他の国・地域で登録された関係会社の商標または登録商標です。
- Elastic は、 Elastic N.V. 及びその関係会社の商標または登録商標です。
- Redis は、 Redis Labs Ltd の商標です。
- その他、記載されている製品名、会社名およびサービス名はそれぞれの各社の商標または登録商標です。

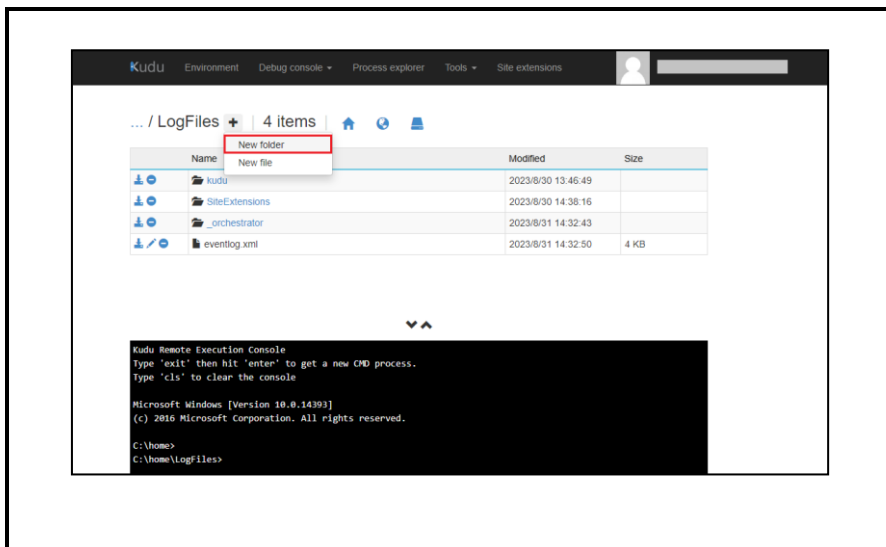
免責事項

- 本ガイドの内容は 2023 年 10 月現在の情報であり、本ガイドは、下記の製品（以下「本製品」といいます。）を説明するものです。
 - UiPath Orchestrator v2023.10
- 本製品、本製品を構成するプログラムまたは本製品が依存もしくは本製品と連携する外部サービスがアップデートまたは修正される等によって、本製品が本ガイドの説明と異なる動作をする、または仕様となる可能性がありますので、予めご注意ください。当該アップデートまたは修正等の後に本ガイドが改訂された場合には、当該改訂後の本ガイドが本製品を説明するものとなります。
- 本ガイドに含まれる情報は可能な限り正確を期しておりますが、本ガイドに記載された内容の正確性、充分性等に関して UiPath 株式会社（以下「UiPath」といいます。）は何ら保証していません。従って、本ガイドに含まれる情報の利用はお客様の責任においてなされるものであり、UiPath はガイドの内容によってお客様が受けたいかなる損害に関して何らの補償をするものではありません。
- 本ガイドは UiPath を法的に拘束する書類ではありません。UiPath はお客様に通知なくして、本ガイドの内容の一部または全部を修正およびアップデートできます。
- 本ガイドの著作権などの一切の知的財産権は、UiPath またはその関係会社に帰属します。お客様は UiPath の書面の承諾なしで本ガイドを複製、修正、頒布、公衆送信等できません。

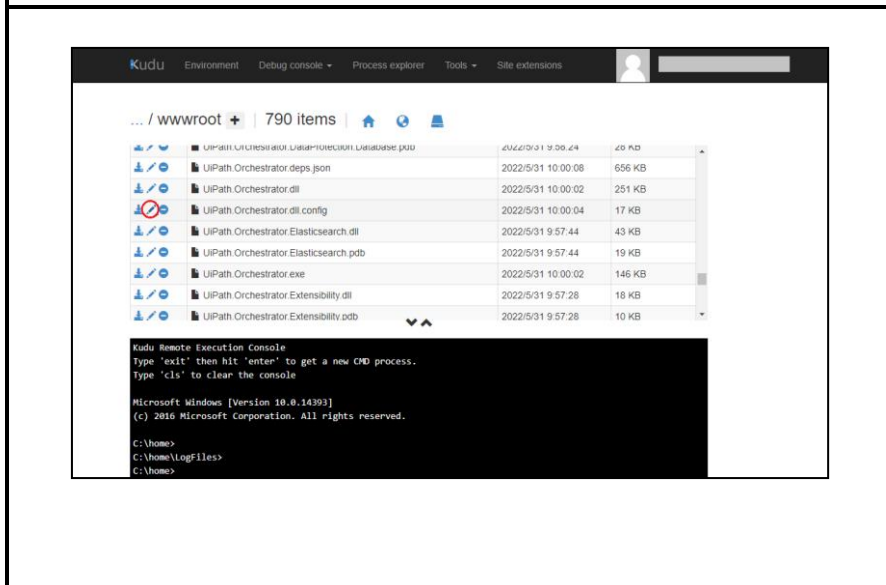
本文書では Azure App Service 上に構築された [UiPath Orchestrator](#) および [Identity Server](#) のアプリケーション イベントログをテキストファイルに日付ごとに出力する手順について説明します。

1. Orchestrator アプリケーションイベントログ

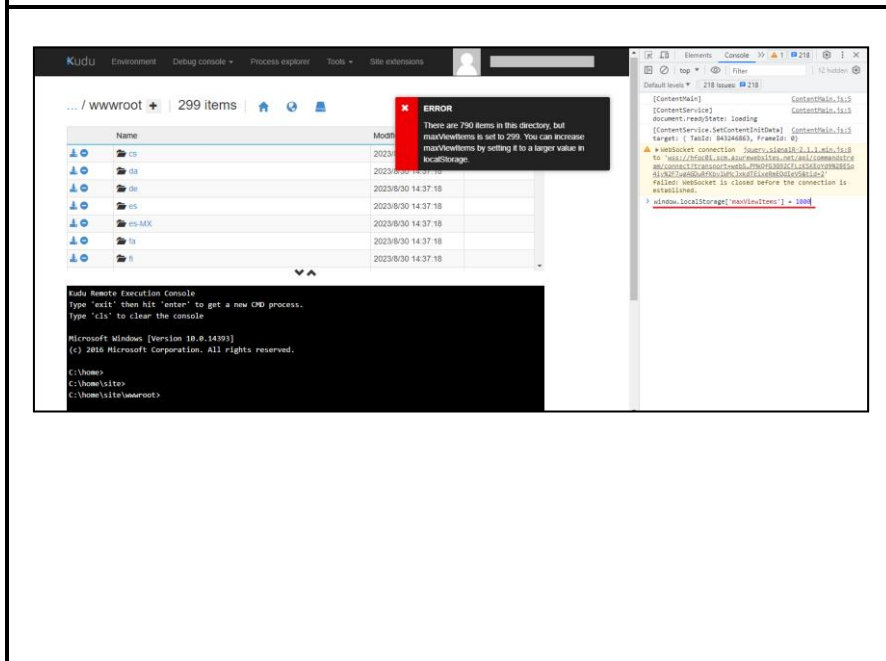
	<p>Orchestrator の App Service において、メニューより「高度なツール」(Kudu) を起動します。</p>
	<p>Debug Console > CMD を起動します。</p>
	<p>上部ファイルエクスプローラーにおいて LogFiles をクリックします。</p>



+ をクリックし、New folder → Orchestrator という名前のフォルダを作成します。



D:\home\site\wwwroot まで移動し、UiPath.Orchestrator.dll.config を編集します。



“There are *** items in this directory, but maxViewItems is set to 299.” というエラーによってファイルが全件表示できない場合には、F12 キーを押下しブラウザの開発者ツールを起動し、Console メニューに移動します。

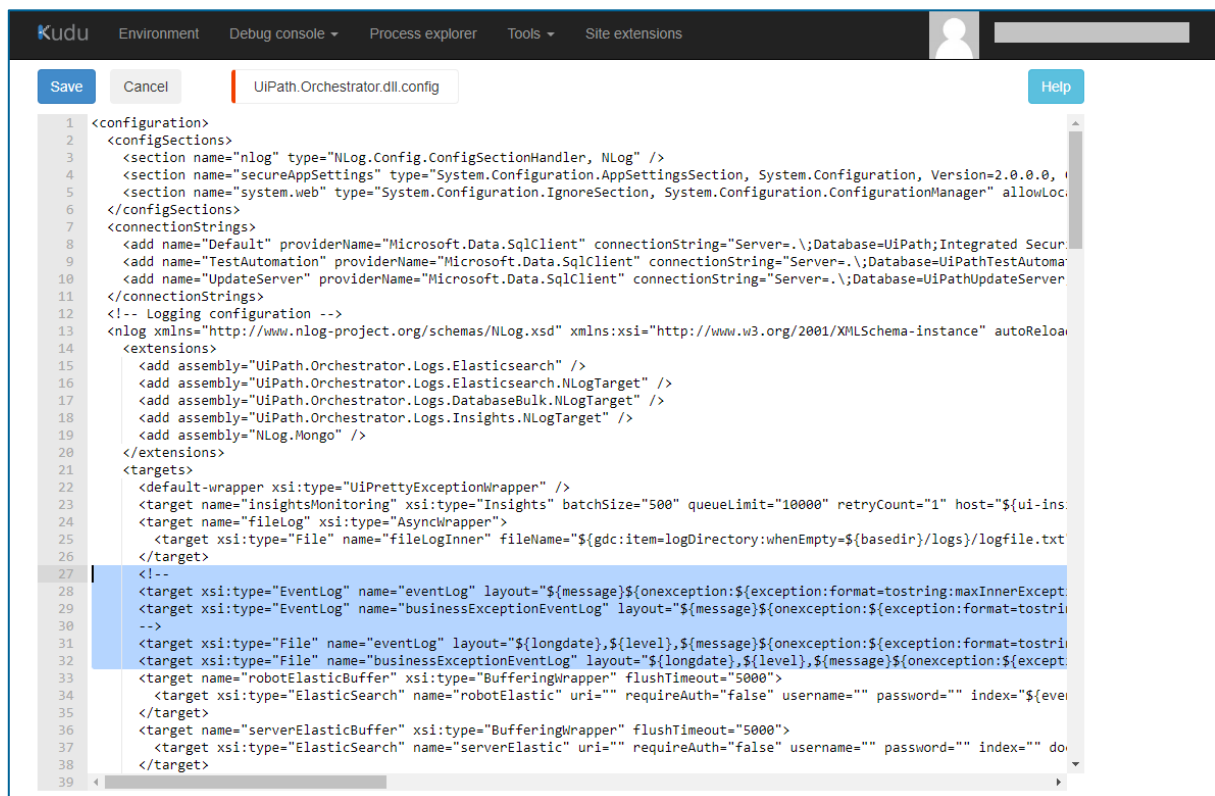
次のコマンドを実行し、画面を再表示します。

```
window.localStorage['maxViewItems'] = 1000
```

UiPath.Orchestrator.dll.config の下記の 2 行をコメントアウトし、新たに 2 行を追加し Save します。

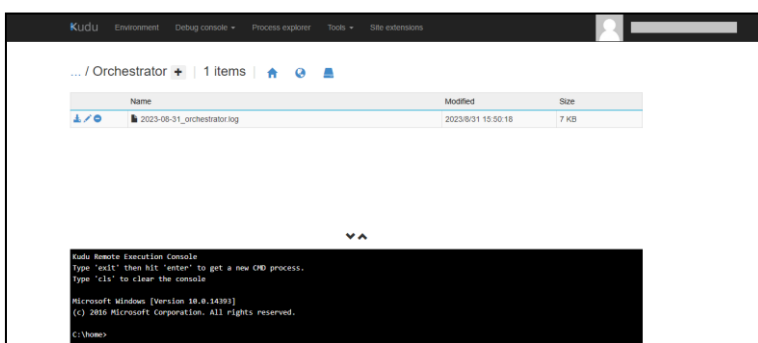
```
<!--
<target xsi:type="EventLog" name="eventLog"
layout="{message}${onexception:${exception:format=tostring:maxInnerExceptionLevel=5:innerFormat=tostring
}}" source="Orchestrator" log="Application" />
<target xsi:type="EventLog" name="businessExceptionEventLog"
layout="{message}${onexception:${exception:format=tostring:maxInnerExceptionLevel=5:innerFormat=tostring
}}" source="Orchestrator.BusinessException" log="Application" />
-->
```

```
<target xsi:type="File" name="eventLog"
layout="{longdate},{level},{message}${onexception:${exception:format=tostring:maxInnerExceptionLevel=5:i
nnerFormat=tostring}}" fileName="D:/home/LogFiles/Orchestrator/${shortdate}_orchestrator.log"
keepFileOpen="true" encoding="utf-8" />
<target xsi:type="File" name="businessExceptionEventLog"
layout="{longdate},{level},{message}${onexception:${exception:format=tostring:maxInnerExceptionLevel=5:i
nnerFormat=tostring}}" fileName="D:/home/LogFiles/Orchestrator/${shortdate}_businessException.log"
keepFileOpen="true" encoding="utf-8" />
```





Orchestrator の App Service 概要に戻り、再起動します。

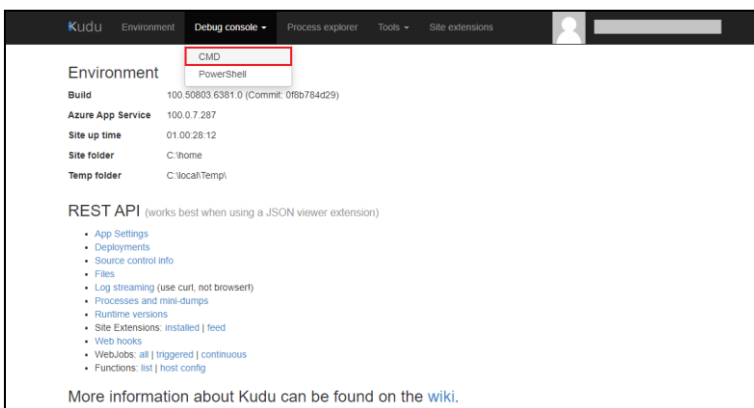


Kudu で
D:\home\LogFiles\Orchestrator に移動し、アプリケーションイベントログがファイル出力されていることを確認します。

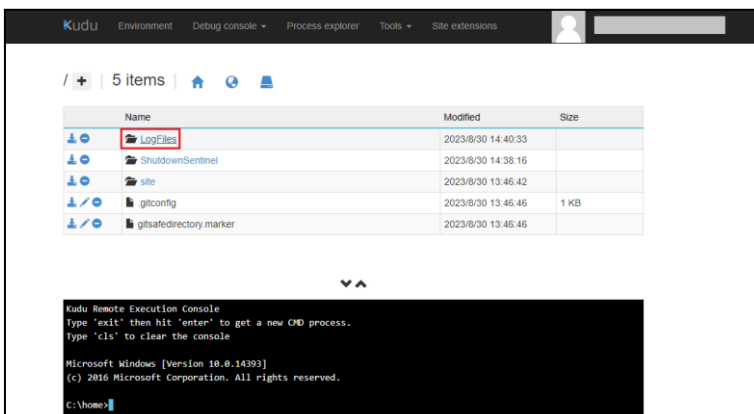
2. Identity Server アプリケーションイベントログ



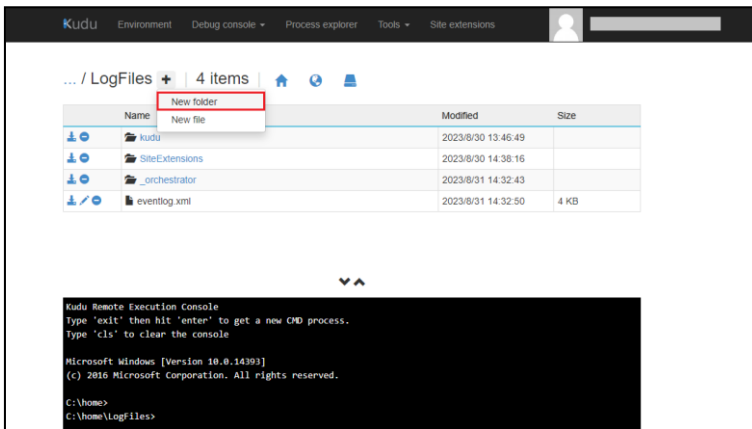
Identity Server の App Service において、メニューより「高度なツール」(Kudu) を起動します。



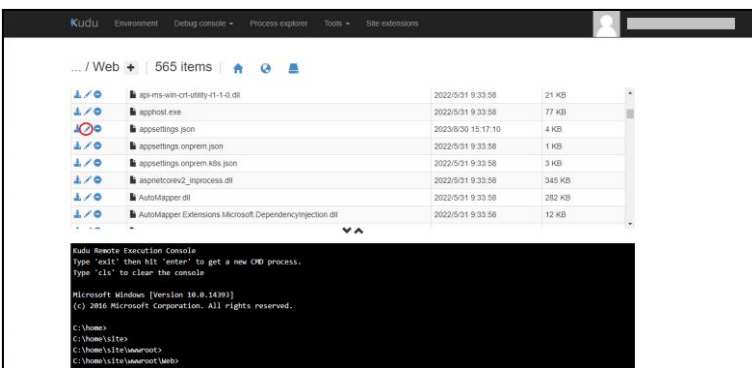
Debug Console > CMD を起動します。



上部ファイルエクスプローラーにおいて LogFiles をクリックします。



+ をクリックし、New folder → Identity という名前のフォルダーを作成します。



D:\home\site\wwwroot\Web まで移動し、appsettings.json を編集します。

※ “There are *** items in this directory, but maxViewItems is set to 299.” というエラーは無視できますが、p5 の手順で回避することもできます。

appsettings.json の下記箇所を変更し Save します。

```

"Log": {
  "IncludeScopes": true,
  "throwConfigExceptions": false,
  "targets": {
    "EventLog": {
      "type": "EventLog",
      "source": "IdentityService",
      "layout": "${longdate} ${loger}
${message}${onexception:${newline}${exception:maxInnerExceptionLevel=10:format=shortType,message,stacktrace:separator=*:innerExceptionSeparator=&#xD;&#xA;&#x9;}}
    }
  },
  "rules": [
    {
      "logger": "*",
      "minLevel": "Info",
      "writeTo": "EventLog"
    }
  ]
},

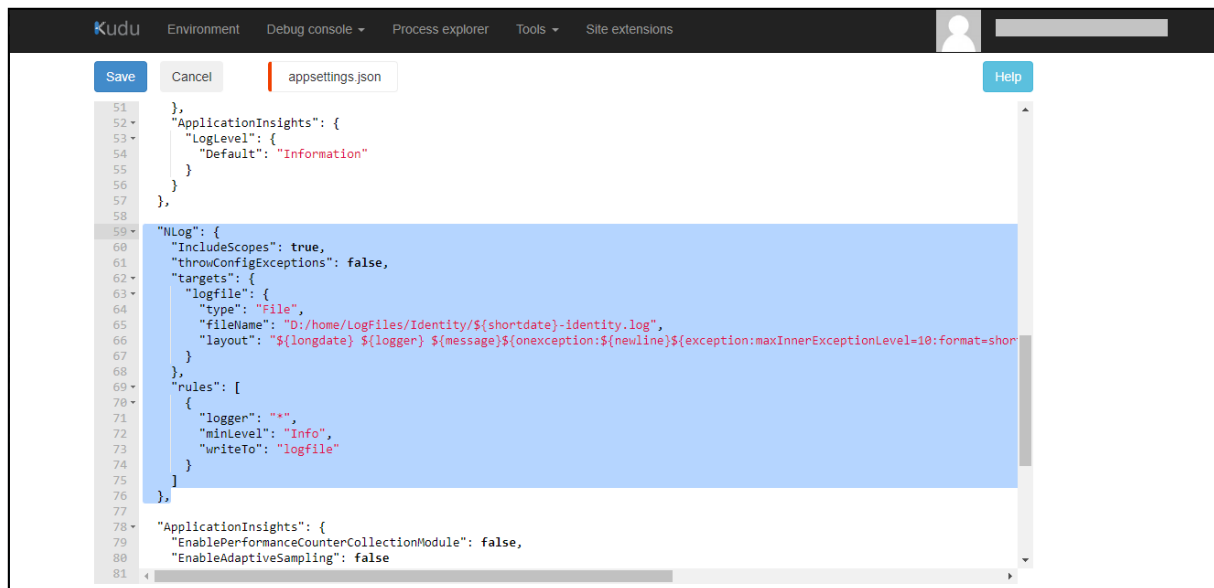
```

```

→

"NLog": {
  "IncludeScopes": true,
  "throwConfigExceptions": false,
  "targets": {
    "logfile": {
      "type": "File",
      "fileName": "D:/home/LogFiles/Identity/${shortdate}-identity.log",
      "layout": "${longdate} ${logger}
${message}${onexception:${newline}${exception:maxInnerExceptionLevel=10:format=shortType,message,stackt
race:separator=*.innerExceptionSeparator=&#xD;&#xA;&#x9;}}}"
    }
  },
  "rules": [
    {
      "logger": "*",
      "minLevel": "Info",
      "writeTo": "logfile"
    }
  ]
},

```



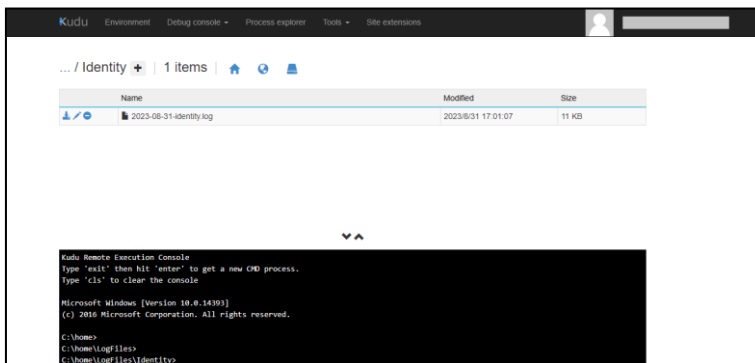
```

Kudu Environment Debug console Process explorer Tools Site extensions
Save Cancel appsettings.json Help
51 },
52 "ApplicationInsights": {
53 "LogLevel": {
54 "Default": "Information"
55 }
56 }
57 },
58 },
59 "NLog": {
60 "IncludeScopes": true,
61 "throwConfigExceptions": false,
62 "targets": {
63 "logfile": {
64 "type": "File",
65 "fileName": "D:/home/LogFiles/Identity/${shortdate}-identity.log",
66 "layout": "${longdate} ${logger} ${message}${onexception:${newline}${exception:maxInnerExceptionLevel=10:format=shortType,message,stacktrace:separator=*.innerExceptionSeparator=&#xD;&#xA;&#x9;}}}"
67 }
68 },
69 "rules": [
70 {
71 "logger": "*",
72 "minLevel": "Info",
73 "writeTo": "logfile"
74 }
75 ]
76 },
77 },
78 "ApplicationInsights": {
79 "EnablePerformanceCounterCollectionModule": false,
80 "EnableAdaptiveSampling": false
81 }

```



Identity Server の App Service 概要に戻り、再起動します。



Orchestrator 管理画面にログインします。その後、Kudu で D:\home\LogFiles\Identity に移動し、アプリケーションイベントログがファイル出力されていることを確認します。

以上